

みやけの風

第 128 号

平成15年(2003年)6月14日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

「朝夕の風が、夏っぽくなってきたな」「夏はいいよな、島を思い出すじよ。植えとけばよ、庭でいくらでも野菜が採れたっけな」「近所に分けたりしてな」「まあよ、うちは貰うばかりだったけどな、魚もな」「季節季節にな、そのころの島の様子を思い出しちゃ、ちいっとばっかし恋しい気持ちになんよな。竹の子だ、タカベだあってな」「食いもんばっかりかよ」「いえ、人間の身体と心は食ったもんで出来てんだぞ」「心もか」「おうよ」
 ところで、「『みやけの風』のよ、あの頭んとこの島の言葉のやりとりな、ちょっと変だじな」と、クレームいただきました。在島17年(内、東京が3年!)、島言葉がうまくありません。ごめんなさい。それとも東京で忘れたのか。島が恋しいです。/筆者

みんなの声

『望郷の詩』

都庁広場で行われた、今年の『東京愛らんどフェア』。夕方より雨との予報で心配されていた天候も、薄日の射す絶好の日和となりました。

中央のステージを中心に、たくさんの島の人や、丁度都庁の退庁時間と重なったせいか、黒山の人で賑わっていました。

何年かぶりで聞いた木遣太鼓、心に沁みるものがありました。この木遣も、一日も早く三宅の地で聞きたいものです。

『望郷の詩』。原案者の三宅村長、作詞者の阿久悠さん、作曲担当で歌手の五木ひろしさん、都知事さん。それぞれがこの歌に寄せる思いを一言づつお話しされ、いよいよ発表です。

曲が流れ、さわやかなブルーのスーツに身を固めた五木さんが歌い始めました。歌の響きもよく、親しみやすいメロディーで、歌詞は音が割れて聞き取りにくかったけれど、目をとじて聞いていると、島の風景が走馬灯のように思い出されました。その後、五木さん自身の持ち歌を3曲歌われ、もう一度『望郷の詩』を歌ってくれて、散会となりました。

この歌が島の人にとっては心の支えとなる応援歌となり、他の人はこの歌を歌うことによって、異郷の地で暮らし、一日千秋の思いで帰島の日を待ちつつづけている、島

民のいることを思い出してほしいと思います。

『望郷の詩』が、みんなに愛される歌になることを願って新宿を後にしました。

(神着 浅沼 ヒロミ)

テープ、毎日聞いてます

『必ず帰るよ』素敵なおメロディと島民の気持ちを代弁しているような歌詞に、とっても感激しています。

作詞して下さった加藤博さん、そしてダ・カーポのお二人にぜひお礼状を出したいと思いました。そう思っている方、たくさんいらっしゃると思います。個人情報うんぬんと言われている昨今、直接お手紙を差し上げることはできないと思いますので、どこか1ヶ所にお便りを集めて、そしてまとめてご本人にお送りできればと考えました。

何かよい方法はありませんか?ぜひ実現させたいです。そしてまた、何かの折にお招きして改めて大きな拍手を贈りたいと思いました。

この空の下、見ず知らずの方々が私たちを心配し、応援して下さっている……。とても心強いことです。明るい気持ちを持ち、そして3番の歌詞にあるように、「明日を信じて」平常心で生活しなくては、と再認識しました。

(港区 坪田 浅沼 京子)

はばたけ！三宅島火山灰プリント

三宅島観光協会では、この6月1日に「三宅島火山灰プリントチーム」を立ち上げました。この事業は、島民の避難中の三宅島の産業として、また、観光で帰島の叶った三宅島へ来てくれるお客さんに体験してもらい、三宅島のお土産としてお店においてもらって、三宅島の復興に役立てばよいのかなと思います。

現在は、主にコースターを作っていますが、三宅島をイメージしたデザインを島民自ら考え、型紙を作って、火山灰を混ぜた

顔料を使い、布にステンシルでプリントしています。これまでに、観光協会で募集した31名の方が講習を受けました。

これからは、機会を作ってたくさんの方に見ていただき、この事業を広めていきたいと思っております。

各地イベントのあるところにもできるだけ参加していきたいと思っておりますので、よろしくお祈りします。注文もお受けしますので、詳しくは観光協会へお問合せください。皆さまの温かいご協力をお願いします。

(三宅島観光協会火山灰プリント事業担当 石井 節美)

三宅島島民ふれあい集会のご報告が出来ました！

6月6日に、「第6回三宅島島民ふれあい集会」お疲れ様会を行いました。24団体60名の方のご参加をいただき、次回への豊富やご意見をたくさんいただきました。

来週には参加ご協力いただいた方へのお礼とご報告の発送を予定しています。ご報告から一部抜粋してお知らせします。



「であいの広場」と名付けられた校庭中央の広場には、「伊ヶ谷」「伊豆」「神着」「阿古」「坪田」とかかれたのぼりが5つたてられた。

今は地区ごとというよりも、島全体として課題に取り組むべきでは、という声も少なからずあったが、旗をあまり離さなかったのも幸いして、違う地区出身の方同士の交流も行われ、旗の下は常に多くの島民の方々に溢れていた。

開会式では、主催者挨拶に続き、長谷川鴻三宅村村長、中村正彦東京都危機管理監、山田和快三宅村議会議長、原田敬美港区長からの、恒例となった応援メッセージがあり、その後三宅村長の詩を元にした曲をリリースする五木ひろしさんから声のメッセージが届けられた。

また、直近まで都の三宅島災害対策の指揮を取り、第1回ふれあい集会から出席し、東京都としての見解・取り組みを常に島民に直接伝えてきた、前東京都副知事青山侑さんは「職を降りたからといって、もう三宅島に関わらないというわけにはいかない」と個人のボランティアとして参加し、「これからも蔭だけでなく表からも応援します」と宣言し、来場者の盛んな拍手を受けた。

内閣府の山本繁太郎政策統括官は、「国としても精一杯皆さんを支えます。皆さんもがんばって下さい」と激励した。

